

1. 調査報告概要表

作成日 2009年7月27日

【評価実施概要】

事業所番号	1572500252
法人名	クラレテクノ株式会社
事業所名	グループホーム ちゅーりっぷ苑
所在地 (電話番号)	新潟県 胎内市 協和町 1831-1 (電話) 0254-43-2580
評価機関名	エム・エム・シー総合コンサルティング株式会社
所在地	新潟県 上越市 富岡 3446
訪問調査日	平成21年7月14日

【情報提供票より】(平成21年6月1日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年7月1日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤	15人, 非常勤 10人, 常勤換算 16人

(2) 建物概要

建物構造	木造平屋造り		
	1階建て	1階	1階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	30,000 円	その他の経費(月額)	約 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	無	有りの場合 償却の有無	
食材料費	朝食	330 円	昼食 330 円
	夕食	330 円	おやつ 110 円
	または1日当たり 1,100 円		

(4) 利用者の概要(平成21年6月1日現在)

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名	
要介護1	0 名	要介護2	6 名			
要介護3	7 名	要介護4	5 名			
要介護5	0 名	要支援2	0 名			
年齢	平均	84.2 歳	最低	66 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	中条中央病院
---------	--------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所は旧中条町の株式会社クラレの敷地内にあり、とても静かな環境にあるグループホームです。2ユニット共通の玄関は非常に広く、ユニットの行き来は自由になっており利用者の方の交流も気軽に行なわれています。ホームには犬とうさぎがおり、利用者から可愛がられています。「安心と誇りを持てる生活づくり」の理念のもと、穏やかな職員の方々が快く親切に対応してくれるというご家族からのアンケート通りの運営がされている感じを受けました。今回の調査であげた課題についても、管理者を中心に職員と一緒に協力し改善をしていただけたと思います。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回の評価で課題となった「居心地のよい共用空間づくり」は改善されていましたが、改善計画シートが作成されておらず、昨年同様課題とさせていただいた項目もありました。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	自己評価は全職員が行い、その後の外部評価で指摘された課題となる点やサービスの質について改善策や具体案を全職員で検討するように努めています。
重点項目	運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	市の担当者、包括支援センター職員、民生委員などに参加していただき事業所からの報告とともに、参加メンバーから質問、意見、要望を受け双方向的な会議となるように配慮しています。さらにその中で生じた検討、懸案事項の解決を目指しサービスの質の維持・向上に取り組んでいます。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7,8)
	玄関に意見箱を設置するほか、面会時や年1回の家族交流会、運営推進会議等において家族の要望や意見を聞き、その内容をケアカンファレンスや職員会議で伝達し運営に反映させています。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
	地域のお祭りや文化展、バザー等には利用者と共に参加したり、地域のサロン会の方々との交流運動会も行っています。また、近隣地域の大学や専門学校の実習や研修を受け入れたりと積極的に交流を図っています。

2. 調査報告書

(部分は重点項目です)

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
		地域密着型サービスとしての理念			
1	1	地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホームの理念として「安心して誇りが持てる生活づくり」を掲げ、生活全般においてサポートをしながら理念の実現を目指し、全職員で取り組んでいます。		
2	2	理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	定期的なカンファレンスや毎月の職員会議等の機会に理念を確認し、具体的かつ個別的なケアの方法について対応の統一を図っています。		
2-2	3	家族や地域への理念の浸透 事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる	家族には年1回の家族交流会や面会時、電話での相談時に機会をみて理念を伝えています。また月1回の「ちゅーりっぷ苑たより」を近隣地域に配布しており、理念の広報に努めています。		
2. 地域との支えあい					
		地域とのつきあい			
3	5	事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域のお祭りや文化展、バザー等には利用者と共に参加したり、地域のサロン会の方々との交流運動会も行っています。また、近隣地域の大学や専門学校の学生の実習や研修を受け入れたりと積極的に交流を図っています。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
		評価の意義の理解と活用			
4	7	運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価は全職員が行い、その後の外部評価で指摘された課題となる点やサービスの質について改善策や具体案を全職員で検討するように努めています。		昨年度の調査に対する改善計画シートが作成されておらず、課題についても職員間で共有されていないものもありました。課題の共有と計画的な取り組みを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
5	8	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	市の担当者、包括支援センター職員、民生委員などに参加していただき事業所からの報告とともに、参加メンバーから質問、意見、要望等を受け双方向的な会議となるように配慮しています。さらにその中で生じた検討、懸案事項の解決を目指しサービスの質の維持・向上に取り組んでいます。		3ヶ月に1回の開催が2度続いた期間がありました。2ヶ月に1回の計画的な開催ができるように日程調整されることを期待します。
6	9	市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市の介護保険担当者は運営推進会議にも参加しており、常に連携を図っており、利用者がよりよい生活を送ることを第一に考え、運営やサービスの課題を早急に解決できるよう協働関係を維持・継続しています。		
6-2	11	虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	近隣地域の振興局が主催をする高齢者虐待防止サポーター育成研修会に参加し、学ぶ機会を得ています。また、虐待に関する危険性が生じる前に全職員が意識を共有し防止に努めています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	利用者の状態の変化時などには、家族等へ個別の報告を徹底しています。他には定期的に苑便りを発行したり、家族等の来訪時には生活の様子などを報告しており、状況に応じて家族等と相談をしています。		金銭出納帳にサインを頂いていない方がいらっしゃいました。定期的にそのような機会を設けるか、入金時には必ずサインをもらうようにするなどの対応の検討をお願い致します。
8	15	運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関に意見箱を設置するほか、面会時や年1回の家族交流会、運営推進会議等において家族の要望や意見を聞き、その内容をケアカンファレンスや職員会議で伝達し運営に反映させています。		
8-2	16	運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は、職員との個別面談を定期的に行い些細な意見等にも耳を傾け運営に反映させ、質の向上につなげていくように努めています。		
9	18	職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	やむを得ず、異動や離職が生じる場合は利用者へのダメージを最小限に抑えるように、引継ぎの期間を十分に取、他職員間で連携を密に行い、利用者や家族にもお知らせするなど最善の努力をしています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
9-2	18-2	マニュアルの整備 サービス水準確保のための各種マニュアルが整備され、職員に周知されている。また、マニュアルの見直しが適宜行われている。	各種のマニュアルは整備されており、状況に応じて変更、修正、追加等の見直しを行っています。また、全職員が把握し共有を図っています。		マニュアルに作成日、修正日が記載されておりませんでした。今後の見直しを行う際にも記載しておくと思いがちですので、対応を期待します。
5. 人材の育成と支援					
10	19	職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の経験や実践の習熟度等に応じて、段階的に外部での研修を受ける機会を提供しています。また、事業所内部の勉強会だけではなく他事業所との合同学習会にも可能な限りの職員が参加しており、働きながらの学びの機会を確保しています。		
11	20	同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	近隣の他事業所間において合同学習会や懇親会を行っており、日々のサービスや、職員育成に役立つ実践的な交流や連携を図っています。		
11-2	21	職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	苑長との半年に1回の面談を実施し、職員のストレスや悩みを把握し、ストレスが大きくなるように配慮しています。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	サービスの利用前は基本的に、本人と家族等に見学をしてもらうことから始めています。急を要し、やむを得ず即利用となった場合は、馴染めるまで家族等や関係者の方々に頻繁に来訪してもらうなどの協力を要請し、安心感を持ってもらうようにしています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と日常生活を共に過ごす中で、利用者個々の得意分野で力を発揮してもらい、畑の管理方法、調理の味付けなどの生活の技や知恵を教わりながら、共に支えあえる関係づくりに努めています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
13-2	28	本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	職員と家族等は、生活の状況などの情報の交換を密に行うことにより、しっかりと連携を図りながら協力関係を築き、家族等と一緒に利用者を支援していけるように努力しています。		
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	センター方式のアセスメント様式を用いて、利用者の思いや暮らしの希望について、本人・家族・関係機関から十分に情報を収集しています。また、本人の望むことや思いなど利用者本位となるように、本人と向き合い把握に努めるようにしています。		
14-2	34	これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	アセスメント(センター方式)を中心に家族、本人に聴いたりしてできるだけこれまでの生活習慣の把握に努め、継続できるよう努めています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人・家族の希望や要望と合わせて、毎月の合同カンファレンスや必要時には随時協議しており、情報やアイデアなどチームの声を聞き入れながら介護計画を作成しています。		
16	37	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	ユニット職員全員で毎月1回モニタリングを行い、状態変化が生じた際には随時介護計画の見直しがなされています。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	緊急時の受診支援、利用者の希望に応じた買い物支援・外出支援など、フットワーク良くグループホームのメリットを活かした柔軟な支援を行なっています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期的な医療機関への受診は基本的には家族等の同行受診となっていますが、緊急時等には職員が代行し受診をしています。また、家族等の事情により同行受診が困難な場合は本人や家族等が納得されたかかりつけ医へ往診を依頼するなどにより、適切な医療を受けられるように支援しています。		
19	47	重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合や終末期のあり方については、本人、家族等とその都度相談をしながら、意向を確認しています。また、全職員で個々の利用者への対応方針を統一し共有を図っています。		
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
20	50	プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	日頃の関わりから、利用者一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや態度をとらないように心掛けており、他の家族等や外来者に対して、利用者のプライバシーに関する話を話さないように徹底しています。		
21	52	日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者、一人ひとりの生活のリズムや希望を大切に、できるだけ本人のペースに合わせ柔軟に支援するように努めています。		レクや外出に関しては集団的な動きになってしまっています。利用者個々に応じた対応ができるようにされることを期待します。
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	利用者個々の能力や状況に応じて買い物、調理、盛り付け、後片付けを一緒に行っています。また、利用者と職員が同じテーブルを囲んで常に楽しく食事できるよう雰囲気づくりを心掛けています。		
22-2	56	気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している	尿意の無い利用者には排泄チェック表を使用することにより、時間や習慣を把握し、さりげなく、トイレへ誘導することで気持ちよく排泄ができるように支援しています。また、失敗した場合でも、極力本人が傷つかないように手早く、周囲に気づかれない等の配慮をしながら対応しています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
23	57	入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者の入浴については、決して無理強いをせず、一人ひとりの生活習慣やその時々希望を大切にしながら対応しています。また、本人の意向を第一に、夕食前や就寝前など、臨機応変に入浴できるよう支援しています。		利用者の希望で入浴したくても入浴できない日もあるようです。人員体制の見直しを行うなどして改善をされることを期待します。
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯たたみや野菜作り、食器洗いなど、生活歴を把握して個々の状況に合った馴染みの暮らしが継続できるよう、介護計画に盛り込むなどして支援を行なっています。		レクや外出に関しては集団的な動きになってしまっています。利用者個々に応じた対応ができるようにされることを期待します。
25	61	日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさず、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気や習慣、楽しみごとに応じて、歩行困難な方でも車椅子等を使用し、心身の活性につながるよう、できるだけ天気の良い日は、散歩、ドライブ等の外出をしています。		
(4) 安心と安全を支える支援					
25-2	65	身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員は身体拘束によって利用者が受ける身体的・精神的弊害について理解し、原則的には拘束は行わないという姿勢で取り組み、共通理解を図っています。		
26	66	鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	日中は、正面玄関の鍵を掛けずに職員の見守りを徹底し、安全面に配慮しながら、自由な暮らしを支援しています。		
26-2	69	事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	事故防止については介護ルールの徹底、建物・福祉用具の点検、ヒヤリハット活動を行い、事故を最小限に抑える或いは未然に防止するように努めています。また、事故の発生後は全員で原因を究明し、再発の防止策を徹底的に検討しています。		
26-3	70	急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている	年に1回、管轄の消防署の協力を得て、救急救命法の訓練を実施し、体験・体得・習得するように努めています。また、夜間帯における緊急時の対応についてはマニュアルを整備し周知徹底を図っています。		昨年度は救急救命法の訓練が実施できませんでした。定期的に行い、職員が急変時の対応ができるようにされることを期待します。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	取り組みを期待したい項目 (印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
27	71	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年に2回、消防署員の立会いの元、利用者とともに防災避難訓練や消火器の取り扱い訓練を行っています。また、災害時には近隣の社宅や独身寮の人たちから協力を得られる体制をとっています。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	1人1人の状態把握のためチェック表をつけています。また、水分摂取についてもこまめにお茶をすすめ、確認が必要な利用者については1日の水分摂取量を把握して支援しています。		定期的に献立を管理栄養士や保健師により、チェックしてもらいカロリーや栄養の偏りなどのアドバイスをいただくことを期待します。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間は、特に環境整備を徹底し、不快に感じる事が無いよう配慮しています。また、日常の食事作りや食器洗い、洗濯、掃除を通して、視覚・聴覚などの五感へ刺激を与え居心地のよい空間を整えていくように心掛けています。		
30	83	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅中に使い慣れた馴染みの日用品等や家族の写真を傍に置いておくなど、本人や家族等と相談しながら、居心地がよく安心して過ごすための環境作りに努めています。		